

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

金 広植

【所属】(助成決定時)

東京学芸大学社会系教育学研究科研究員

【研究題目】

朝鮮総督府編纂教科書における朝鮮説話収録過程に関する研究

【研究の目的】(400字程度)

本研究で、朝鮮総督府編纂国語(日本語)教科書に収録された朝鮮説話(童話)とその東アジア的広がり
の可能性について取り扱った。先行研究において、朝鮮総督府国語教科書はイデオロギーに満ちた植民地支配
の道具としてのイメージが根強い。

本稿では、朝鮮総督府教科書に収録された童話を取り上げ、従来の「一貫した支配の道具」としての見方
から距離を置き、各期別編纂の推移及び変化、執筆者の役割・履歴を実証的に考察した。特に、第二期国語
教科書の可能性に注目した。第二期は芦田恵之助の主導で、1923年から編纂されたが、それは大正デモクラ
シーの児童中心主義の立場から編纂されてのものであり、母語ではない植民地児童のための細かい配慮を垣間
見ることができた。朝鮮総督府学務局嘱託、田中梅吉の資料を芦田が活用した過程を復元できた。

【研究の内容・方法】(800字程度)

私は博士論文において、植民地期に刊行された52種に及ぶ日本語朝鮮説話集の書誌とその内容を明らか
にした。今日の韓国での「説話」は、神話・伝説・昔話の総称として用いられるが、その概念は既に植民地
期に創られたものと考えられる。高橋亨の『朝鮮の物語集』(1910年)をはじめとした説話集の刊行、それ
に基づいて展開された高木敏雄、南方熊楠、西村眞次、孫晋泰などの東アジア比較説話論の可能性及びその
広がりに関する具体的な研究が求められる。

従来の研究では、日本人の説話集＝植民地主義に対して、朝鮮人の説話集＝抵抗民族主義として二分法が
根強いが、これでは分析困難な状況に陥る。そこで本研究では、単純な二項対立的図式を乗り越え、相互関
連性・影響・交流を総合的に究明した。特に、1920年代までの説話集及び朝鮮総督府調査を新しい資料の発
掘に基づいて具体的に分析することで、東アジア共通の朝鮮説話が教科書に収録される過程を実証的に復元
した。

私は先行研究において、従来その編者が不明であった朝鮮総督府の『朝鮮童話集』(1924年)の成立過程
を初めて明らかにした。朝鮮総督府の『朝鮮童話集』は、民俗学者柳田国男の郷土会に参加したグリム研究
者田中梅吉の著作である。田中は朝鮮教科書を編纂した朝鮮総督府学務局嘱託として1916年から勤め、精
力的に朝鮮の説話(童話)を集め、朝鮮童話研究に大きな影響を及ぼした。私は田中の調査報告書が教科書
に反映されたと仮定している。

【結論・考察】(400字程度)

朝鮮総督府は、1910年「韓国併合」後、国語(日本語)普及のため、植民地初等教育における国語教科書
『普通学校国語読本』を1912年から編纂しはじめた。第二期国語教科書は芦田恵之助の主導で、1923年か
ら編纂されたが、東アジア関連の材料を多く取り入れ、日本の童話よりも東アジアへの広がりを示す朝鮮童
話を多く収録したという特徴を持つ。先行研究では、第二期の編纂を主導した芦田恵之助を中心にその内容
を言及しているが、芦田の朝鮮での履歴及び参考資料に関する分析は行われていない。そこで私は、芦田が
朝鮮の童話に関心を持つようになった契機を、朝鮮滞在時期の体験及び履歴、回顧録、関係者の記録等を総
合することでその実相を明らかにした。